

## 産業構造審議会製造産業分科会車両競技小委員会（第21回）

### 議事要旨

#### 1. 日時

令和7年12月17日（水）14:00～16:30

#### 2. 場所

経済産業省本館17階 西7 第1特別会議室及びオンライン開催

#### 3. 出席者

山本将利委員長、奥野史子委員（オンライン参加）、奥野美奈子委員（オンライン参加）、藤岡良一委員、松田美幸委員（オンライン参加）、山下真輝委員、秋谷美隆オブザーバー、浅野史久オブザーバー、今成貞昭オブザーバー、川島聡オブザーバー、木戸寛オブザーバー、中野光公オブザーバー、平石克巳オブザーバー（オンライン参加）、安祐一オブザーバー、渡部淳二オブザーバー（オンライン参加）

#### 4. 議題

- (1) 競輪事業の第3次中期基本方針（案）について
- (2) オートレース事業の第3次中期基本方針（案）について

#### 5. 議事概要

- ▶ 議事に先立ち、事務局から、会議及び配布資料を公開することを説明。
- ▶ その後、山本委員長により、議題に沿って進行。  
事務局、公益財団法人JKAから説明を行い、その後、各委員から意見が述べられた。  
主な意見は以下のとおり。

#### 競輪場、オートレースにおける酷暑対策

- 今後、夏の酷暑で多くのスポーツが実施困難になる懸念がある。競輪・オートレースが持続可能であり続けるため、運営面での取り組みに加えて、競輪場の屋内化など、長期スパンでの会場設計の方向性を検討する必要があるのではないか。

#### アスリートの社会貢献発信

- 社会貢献やその発信について、施行者や補助事業の取組は承知している。一方で、現役・引退アスリートが自ら社会貢献を行い発信する仕組みを、補助事業や予算を活用して構築することを検討してはどうか。アスリートの情報発信力を活かせば、非ファン層にも届くことが期待できる。

### プロモーションの方向性

- 個人的に自転車に親しみがあリ競輪は身近に感じるが、バイクに乗らないためオートレースは距離があると感じる。同様の感覚を持つ女性が多い可能性がある。女性を拡大対象にするのか、するならどうリーチするかを戦略的に検討した方がいいと思う。
- 競馬ドラマの例に見られるように、競技の裏側の物語（関係者・支える人々の思い）が視聴者の心を動かす。キャッチーなPRだけでなく、ドキュメンタリー的な見せ方を強化してはどうか。
- オートレース選手が自らマシンを組み上げ操る点は、単なるオートスポーツを超えて「機械を制する者」という格闘技的の魅力がある。インバウンド親和性も高いのではないか。新概念の打ち出しを提案したい。

### 競輪場の改修について

- 地域のランドマークとして生まれ変わる競輪場として広島競輪場の改修計画の紹介があったが、とても良い方向性と感じた。取り組みがうまくいった要因等を分析して他の自治体にも横展開していけるとよいと思う。
- 広島競輪場については民間が施設の建設や経営にも深く関わる形で、そのメリットを大いに活用していると考える。官民の役割のバランスは競輪場の立地条件や施行者の収益状況などによって様々だろうが、広島の方式は今後改修を検討する自治体にとって選択肢となり得ると思う。

### 選手育成に関する地域との連携

- 少子化の中で、高校・大学・部活地域移行との切れ目ない育成を次期計画でどう具体化するのか。従来にない強化策があれば知りたい。
- 学校・部活と連携すること自体が社会の理解・好意的認識を高める。社会還元PRとも親和的で、積極的に発信をしていっていただきたい。

### 競輪・オートレースの認知度等の調査方法について

- 今後は広報施策の転換時に定期的に、競輪とオートを個別に測定するほうが施策検証に有効ではないか。
- オートレースのイメージ調査は、公営競技横断で通用する設問に見える。オートレース固有の課題を把握できる調査設計が必要ではないか。

### スポーツ性の深掘り・競輪とオートレースの連携について

- 競輪の「スポーツ観戦として楽しい」の具体中身の把握状況、オートの分析の精緻化、両競技の顧客重なりと相互誘導の可能性を確認したい。

## その他

○競輪 80 周年、ロサンゼルスオリンピック、車両システム（VIS）更新が重なる 2028 年は、2030 年目標（競輪 2 兆円）に向けた重要なマイルストーンである。新しいフォーマットへの挑戦として、例えば応援の対象を選手個人から上位選手で構成するチームになるような見せ方や、そのチーム戦での応援スタイルの導入などのトライアル的な取り組みを提案したい。

製造産業局 車両室

電話：03-3501-1511